

## 認知症、運動器疾患等の長寿(老年)医療に係るネットワーク等 社会基盤構築に関する研究

研究代表者 伊藤健吾 国立長寿医療センター 長寿脳科学研究部長

### 研究要旨

1)長寿(老年)ネットワーク・グランドデザイン研究グループ、2)認知症臨床研究グループ、3)ネットワーク構築研究グループを設置し、認知症および運動器疾患等に係る研究および臨床等の情報共有と発信、診療支援のためのネットワークを中心に人的、物的ネットワークの開発研究を開始した。具体的には日本の医学部・医科大学における加齢医学・老年医学教育の調査・分析、「MCIを対象とするアルツハイマー病の早期診断に関する多施設共同研究(SEAD-J)」の遂行、認知症根本治療薬の治験のネットワークに関する調査研究、テレビ会議システムなどIT基盤の整備とアンケート調査を含む各種予備的調査が行われた。

### 研究分担者

鷲見幸彦 (国立長寿医療センター)  
新畑豊 (国立長寿医療センター)  
服部英幸 (国立長寿医療センター)  
中村昭範 (国立長寿医療センター)  
籾野健太郎 (国立長寿医療センター)  
加藤隆司 (国立長寿医療センター)  
荒井啓行 (東北大学)  
福山秀直 (京都大学)  
千田道雄 (先端医療センター)  
尾内康臣 (浜松医科大学)  
石井一成 (姫路循環器病センター)  
目黒謙一 (東北大学)  
前田潔 (神戸大学)  
長谷川友紀 (東邦大学)

### A. 研究目的

本研究では将来の長寿(老年)医療に係るグランドデザインの構築を関係者等により検討を行うとともに、アルツハイマー病の早期診断、治療効果判定等に係る臨床研究の実施を通じて、認知症臨床研究のネットワークの構築を行い、今後予想される認知症根本治療薬の治験を促進するにふさわしいシステム開発を行う。また、認知症および運動器疾患等に係る研究および臨床等の情報共有と発信、診療支援のためのネットワークを中心に人的、物的ネットワークの開発研究を行い、今後の長寿(老年)医療のネットワークの基幹となる社会基盤の構築を行う。

### B. 研究方法

本研究は上記研究課題に対応して、1)長寿(老年)ネットワーク・グランドデザイン研究グループ、2)認知症臨床研究グループ、3)ネットワーク構築研究グループを設置するとともに、研究全体の運用、進行管理、計画管理等の管理を行う委員会として各研究グループの責任者その他で構成される長寿(老年)ネットワーク研究運営委員会を置く。

研究一年目の今年度は各研究グループが以下のような内容で研究を行う。

1)長寿(老年)ネットワーク・グランドデザイン研究グループは、長寿(老年)ネットワークのあるべき姿について、基礎および臨床研究、診療、在宅医療、看護・介護、人材育成、情報発信など全般的な領域について調査研究を行う。初年度は人材育成の観点から老年医学の専門家を国立長寿医療センターと大学、老年医学会等が連携して養成する体制の調査に着手する。

2)認知症臨床研究グループは、国立長寿医療センターが中心となって行っている「MCIを対象とするアルツハイマー病の早期診断に関する多施設共同研究(SEAD-J)」を支援し、追跡調査を確実に実施するとともに、追跡終了時のデータ解析を順次行っていく。また、すでに行われている「MCIを対象としたアルツハイマー型痴呆の早期診断に関する研究 脳血流SPECTによる診断(J-COSMIC)」および2008年度から実質的に開始される「アルツハイマー病総合診断体系実用化プロジェクト・全国共同臨床研究(J-ADNI)」と連

携を図りながら、認知症臨床研究の課題、あるべき姿等の調査研究を行い、今後予想される認知症根本治療薬の治験のネットワークについて調査研究を行う。また、グループ内に「RCTになじまない認知症治療薬の治験のあり方に関する研究」と「認知症に関する身体管理の研究」の2つの小班をおく。

3) ネットワーク構築研究グループは、認知症および運動器疾患等に係る研究および臨床等の情報共有と発信、診療支援のためのネットワークの開発研究を行うが、初年度は「認知症サポート医ネットワーク構築に関する研究」と「身体疾患を有する認知症 BPSD 患者の治療における地域連携構築に関する研究」に着手するとともに、ネットワークの IT 基盤に関する調査を行う。

(倫理面への配慮) 本研究のうち臨床研究に係る内容の実施にあたっては厚生労働省が定める臨床研究に関する倫理指針を遵守するとともに各施設の倫理委員会等の承諾を受け、施設内基準に準じた書面による承諾を患者から得る。

## C. 研究結果と考察

研究初年度においてそれぞれのグループで以下のような進捗が見られた。

1) 長寿(老年)ネットワーク・グランドデザイン研究グループは、高齢者に向き合う医師が身に付けておくべき必要最小限の対応能力を明確にし、そのための老年科医の養成プログラムを国民に分かりやすく提示するため、「医学教育モデル・コア・カリキュラム - 教育内容ガイドライン - 平成19年度改訂版」を参考に加齢医学・老年医学教育内容を調査した。医学教育モデル・コア・カリキュラムでは高齢者によく見られる症候各論のみならず、高齢者固有の問題や医療環境などにも目を向け理解を求めていることが明らかとなった。しかし、日本の医学部・医科大学において、老年医学を扱う講座または診療科は20数校のみに限られている現状では、必修教育とされている「医学教育モデル・コア・カリキュラム - 教育内容ガイドライン」に明記された加齢・老年医学教育がどのように実施され達成されているのかは明らかでなく、今回の資料をもとに日本のすべての医学部・医科大学における加齢・老年医学教育の実態を調査が必要と考えられる。

2) 認知症臨床研究グループは、「MCIを対象とするアルツハイマー病の早期診断に関する多施設共同研究(SEAD-J)」を遂行し、MCIの追跡調査を着実に行った。登録時と追跡1年目の臨床および画像データ(PET、MRI)の解析から、MCI被験者群のそれぞれの神経心理学的および画像上

の特徴と縦断的变化を明らかにした。「MCIを対象としたアルツハイマー型痴呆の早期診断に関する研究 脳血流 SPECT による診断 (J-COSMIC)」および「アルツハイマー病総合診断体系実用化プロジェクト・全国共同臨床研究 (J-ADNI)」と連携を図り、MCI患者の長期追跡調査の体制を検討し、J-COSMICについて長期追跡のプロトコール(J-COSMIC-E)を作成した。さらに臨床研究のIT基盤を整備するためにネットワーク構築研究グループと共同でビデオ会議システム、遠隔読影システムのモデル構築を行い、運用を開始した。さらにこれらの臨床研究ネットワークを基盤として認知症根本治療薬の治験ネットワークを構築するために、アンケート調査を実施した。

グループ内の2つの小班「RCTになじまない認知症治療薬の治験のあり方に関する研究」と「認知症に関する身体管理の研究」も研究に着手しているが、「RCTになじまない認知症治療薬の治験のあり方に関する研究」では認知症の疾患特性を考慮した評価指標の設定、研究デザインについて検討するための基礎的資料の収集を行った。現在、日本ではレセプトのオンライン化、電子カルテシステムの普及、DPCの導入により患者に提供されている医療行為の可視化が促進されつつある。それらのデータを用いたリアルタイムな前向き調査、総合的な解析は、新たなエビデンス手法の確立に資する可能性がある。「認知症に関する身体管理の研究」では、認知機能障害者における難聴のスクリーニング法の検討(一般的に行われている聴力検査と、他覚的聴力検査と単語テストを行い、プライマリケア施設や介護施設でも行える難聴のスクリーニングマニュアルを構築する。)、新しい他覚的視野測定法による認知症患者の視機能評価に関する研究(認知症患者には自覚的検査法は限界があり、新たな他覚的な視機能評価法を開発する)、認知症患者の歯科診療マニュアルの作成(認知症患者に対する歯科診療の有用性や、注意点、問題点を分析し認知症歯科診療マニュアルを作成する。)を進めている。

3) ネットワーク構築研究グループのうち「認知症サポート医ネットワーク構築に関する研究」では、サポート医の教育システム、診療ネットワークを構築してサポート医同士の連携強化、診療支援を行うため、メーリングリストまたは掲示板を利用した IT 上の連携システムについて検討している。本年度はアンケート調査によりこのようなシステムのニーズを調査した。また、「身体疾患を有する認知症 BPSD 患者の治療における地域連携構築に関する研究」では、地域における BPSD 診療

の連携モデル構築を目的とする。現在、国立病院内科、外科の医師および単科精神科病院医師、介護施設勤務医師、ケアマネジャーを研究協力員として、それぞれの立場から現状についての問題点を整理しつつある。さらに全国の国立病院を対象とするアンケートを実施する予定でその準備を進めている。以上の研究および前述の臨床研究ネットワークの IT 基盤に関する統合的なシステム構築を目標として本年度中にホームページを通じての情報収集、データベース化、情報発信、診療支援、テレビ会議システムなど双方向性の情報交換のためのモデルシステムを基幹施設の間で構築した。

現在、そのテスト運用を行っている。

#### D. 結論

研究初年度として1)長寿(老年)ネットワーク・グランドデザイン研究グループ、2)認知症臨床研究グループ、3)ネットワーク構築研究グループのそれぞれにおいて研究が着実に進められた。具体的には日本の医学部・医科大学における加齢医学・老年医学教育の調査・分析、「MCI を対象とするアルツハイマー病の早期診断に関する多施設共同研究(SEAD-J)」の遂行、認知症根本治療薬の治験のネットワークに関する調査研究、テレビ会議システムなど IT 基盤の整備とアンケート調査を含む各種予備的調査行われた。

#### E. 研究危険情報

なし

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

( . 研究成果の刊行に関する一覧表を参照)

##### 2. 学会発表

各分担研究報告書参照

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

なし